

# 絵本に関する保育計画について —保育の場での絵本の役割と指導の要点—

## A Nurture Plan about a Picture Book — The Role of Picture Books and Point of Guidance at a Place of Nurture —

(2017年3月31日受理)

坂 田 季 穂

Kiho Sakata

Key words : 保育計画, 絵本, 指導の要点

### 要 旨

本稿では、保育の場での絵本の役割について述べた上で、保育計画において乳児クラスと幼児クラスそれぞれで保育者が留意する指導の要点を検討し、提案を行った。乳児保育には、保育者と心を通い合わせて喜びやドキドキなど様々な感情を分かち合い感じ合う、共感体験を大切にすることが示唆できた。また、幼児クラスでは、読み聞かせはもちろんのこと、それに加え自らが絵本を手にとって読むことのできる環境設定が必要であることから、子どもたちが自ら絵本を選んで読めるような環境構成の留意点と指導の要点を、年間を通して計画できるようにまとめた。

### I. はじめに

保育所、幼稚園、認定こども園など、ほとんどの保育現場では、保育計画が作成され、保育が展開されている。

保育計画は、指導計画、保育カリキュラム、保育プラン、保育プログラム、など様々ないわれかたがある。保育計画とは、『保育用語辞典第7版』によると、2003年改定自動福祉法において、保育の実施への需要が増大している特定市町村ならびに特定都道府県に策定が義務づけられた計画のことであると記載されている。保育所保育指針では、第4章、保育の計画及び評価において、保育課程及び指導計画を「保育の計画」とし、すべての子どもが、入所している間、安定した生活を送り、充実した活動ができるように、柔軟で発展的なものとし、また、一貫性のあるものになるよう配慮することが重要であるとしている。また、幼稚園教育要領では、第3章、指導計画及び教育課程に係る教育時間終了後等に行う教育活動などの留意事項、第1、指導計画の作成に当たっての留意事項において、幼児期にふさわしい生活が展開され、適切

な指導が行われるよう、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行わなければならないとされている。また幼保連携認定こども園教育・保育要領でも同じく意味付けられている。

保育計画といっても、その計画の意義によっていくつもの種類がある。まず、園として保育を実施するための基本方針として、保育課程・教育課程・全体的な計画がある。保育課程・教育課程・全体的な計画の編成は、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、各園・施設の設定理念や実態、子どもの発達特性、地域社会の実態、社会や保護者の願い、保育者の願いなどをもとに編成される。これらをもとに、長期の指導計画である年間指導計画、期間指導計画、月間指導計画、さらに短期の指導計画である週間指導計画、1日の指導計画、部分の指導計画などに具体化される。その他にも、一人ひとりの育ちの状態に即した個別の指導計画や、保健および安全面に関しての指導計画、家庭との連携に関する計画や、食育に関する指導計画など、園によって保育計画の種類や形式は様々で

ある。

このように様々な保育計画が作成されているが、絵本に関してはどのような計画で保育が展開されているのであろうか。長期指導計画や短期指導計画に、一部、絵本を保育にどのように取り入れるか計画している園は少なくない。保育者が子どもたちに年間を通して知ってほしい絵本、季節に合わせて読みたい絵本、子どもたちの興味や関心に合わせて保育に取り入れたい絵本など、保育者自身が見通しやねらいをもって計画を立てていることがある。絵本をどのように保育に取り入れるかは保育者次第でもある。正置（2015）は絵本という素晴らしい文化財が、保育の現場で本来の役割を十分に果たせないでいることに課題意識をもち、保育の現場で絵本が活かされていない現状を指摘している。保育に絵本は欠かすことはできない。絵本の役割を保育者自身が理解した上で、絵本を取り入れた保育を行うことは、子どもたちにとってかけがえのない一生のたからものとなる。そこには、ある程度の計画を立案していくことも必要だと考える。そこで本研究では、保育の場での絵本の役割について述べた上で、保育計画において乳児クラスと幼児クラスそれぞれで保育者が留意する指導の要点を検討し、提案していくこととする。

## II. 絵本の役割とは

絵本が子どもにとってどんな意味があるか、どんな役割があるかは、子どもによって異なる。子どもの情緒や周りの環境は人それぞれだからである。保育の場の集団生活の中で、子ども一人ひとりを丁寧に見ていく必要がある。ここでは、乳児（0, 1, 2歳児）クラスと幼児（3, 4, 5歳児）クラスに分けて絵本の役割と指導の要点について述べていくこととする。

### 1. 乳児クラス

乳児保育は、愛と信頼の保育であり、親しい保育者との信頼関係のもとで子どもは育っていく。さらに、乳児保育は、乳児と保育者が向き合う個別保育が中心となり、保育者と心を通い合わせて喜びやドキドキなど様々な感情を分かち合い感じ合う、共感体験をする。乳児は絵本の読み聞かせにより、保育者に抱かれたり、膝の上に座つ

たりして、目を見交わしながら、様々な感情の共感体験をするのである。また、これは保育者の身体の温もりを肌で感じて、愛されていると思える愛情体験のひとつであり、読み聞かせを通してこのような体験を積み重ねていくことで、情緒の安定とともに、将来豊かな人間性が育まれる素地ともなるのである。

また、乳児の発達によって絵本の選び方や、読み方を配慮していくと、子どもはより絵本を楽しめ、保育者との絵本を介したやりとりを喜んでするようになる。表1は、徳永（2009）が述べた発達に応じた保育者の配慮をまとめたものである。

徳永（2009）は、絵本の読み聞かせが保育のつなぎになっていないか懸念している。子どもは絵本が大好きだからこそ、安易に絵本が使われていると感じているのである。クラスの子どもたちが落ち着かないので絵本でも読んで静かにさせようか、泣きを収めるためになど困った時の助け舟のような存在になっていないかと保育者自身見直すことが必要である。そのような状況での読み聞かせでは、子どもたちは絵本の本当の楽しさを十分に知ることは難しく、義務的な絵本の読み聞かせは、子どもたちを絵本から遠ざけてしまうことになりかねない。子どもたちに、絵本の読み聞かせの楽しさ面白さを伝え、保育の中に絵本をどう位置づけるかは、保育者次第でもあり、とても大切なことである。

### 2. 幼児クラス

子どもは成長とともに、新しい絵本の楽しみ方を発見していく。乳児は、絵本を読んでもくれる人の声や温もりを、幸福感とともに記憶する。この記憶が幼児期以降、さまざまなジャンルの絵本の扉をひらく力の素となる。3歳になるころには、他者への関心が芽生え、友達と同じ遊びを徐々に楽しめるようになる。好奇心が増し、自分の力を発揮したいという気持ちも芽生え、自分と同じように小さい動物や乗り物が活躍する話を好むようになる。また、4歳ごろのなると、ハラハラドキドキする怖い絵本にも挑戦できる。そして5歳になるころには、想像力が大きく育ち、ファンタジー絵本や科学絵本など、それぞれの関心に応じて、自分で絵本を選び、その世界を自在に楽しむようになる。

そこで、子どもたちが絵本を生活の一部とするとき、

表1. 乳児の発達に応じた絵本の特徴と読み聞かせの要点

年 齢 (月 齢)	絵本の特徴	読み聞かせの要点
4～6か月ごろ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばは、擬音語や擬態語・そしてリズムのある絵本</li> <li>絵は、輪郭がはっきりしていて小さい描き込みがなく、動物や人であれば正面をむいている絵本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視力がまだ十分に育っていないので、できるだけ子どもの目線に合わせる</li> <li>優しく柔らかい声で、ゆっくりていねいに読む</li> <li>笑顔で穏やかに読む</li> </ul>
0歳後半 (7～12か月ごろ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵は、子どもが知っている身近なものが描かれている絵本</li> <li>擬音語・擬態語などの楽しくて繰り返しのあることばのある絵本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読んでいるところを指で押さえて、子どもの視線を誘う</li> <li>保育者と一緒にまねっこして遊べるようにする</li> </ul>
1歳前半 (1～1歳6か月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単なストーリーがある絵本</li> <li>子どもにとって身近なものが描かれている絵本</li> <li>リズムのある繰り返しのことば</li> <li>大きくはっきりした絵</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく、強弱をつけて読む</li> <li>子どものことば、指さしに応える</li> <li>簡単なごっこあそびを楽しむ</li> </ul>
1歳後半 (1歳7か月～2歳ごろ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活やあそびの身近なものが描かれている</li> <li>生活やあそびの中によく使うことばがリズムカルに書かれている</li> <li>絵も文も少し複雑になっていて、探したり、理解する喜びがある</li> <li>あそびにつながる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばが分かるようになったばかりなので、しっかりことばが伝わるように読む</li> <li>絵にも関心が出てくるので、絵をゆっくり見るようにする</li> </ul>
2歳児期 (2歳代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵を見てことばの理解がふかまる、絵を読むことができる絵本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発見に応え、気持ちを受け止めながらゆっくり読む</li> </ul>
2歳児期 (3歳代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>少し長いストーリー性のある絵本</li> <li>現実の世界から生まれるハラハラドキドキ感のある絵本</li> <li>想像あそびに広がる絵本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばが子どもの心に届くように、はっきり、ゆっくり読む</li> <li>絵の中のことが読み取れるように、絵をゆっくり見せる</li> <li>読んだあと、子どもが納得するまで絵をよく見せる</li> </ul>

『赤ちゃんにどんな絵本を読もうかな—乳児保育の中の絵本の役割—』を参考に筆者作成

読み聞かせの時間だけでなく、保育室の絵本コーナー、絵本棚などの充実が不可欠である。子どもたちの生活は連続しているため、自らが絵本を手にとって読むことのできる環境設定が必要である。今回は、子どもたちが自ら絵本を選んで読めるような環境構成の留意点と指導の要点を、年間を通して計画できるようにまとめた。

ねらい：

- 落ち着いた雰囲気の中で過ごすことで安定して遊べるようにする（養護）
- 絵本に興味をもち、思い思いに絵本を見たり読んだりすることを楽しむ
- 好きな絵本や興味のある本を選んで見たり、読んでもらったりして絵本に親しむ

- イメージしたことを絵や言葉で表現する楽しさを味わう
- 自然のものを遊びに取り入れて遊んだり、季節が移り変わっていく様子に気づいたり不思議さを発見したりする

#### 指導の要点

- ・自分の居場所や落ち着ける場所として絵本コーナーに行く子どももいるため、表情や行動を見ながら、落ち着いたり休んだりできるよう対応する
- ・ソファやぬいぐるみを近くに置くことにより、落ち着けるようにし、その付近には優しい内容の絵本を置いておく
- ・子どもが選んだ絵本の読み聞かせをし、子どもたちが興味をもって楽しめるようにする
- ・保育者も絵本を読んだり一緒に見たりしながら、楽しい絵本の時間を過ごせるようにする
- ・子どもが話すのを近くで聞いたり、一緒になって次のストーリーの展開を考えることで、イメージを豊かに表現する楽しさや面白さを感じられるようにする
- ・ゆっくりしたい時や、静かな場所で何かをしたい時、困ったことがある時など様々な思いがあるので、子どもの表情や行動、話からくみ取り、個々の状況に合わせて関わる
- ・部屋の温度に気を付け、換気をするなどして子どもにとって快適な状態を保つようにする
- ・いろいろな様子や絵本の内容について発する子どもの言葉や思いを受け取り、保育者も感じたことや思いを伝え、様々なことに関心をもてるようにする
- ・本棚には、子どもが好きな絵本や最近読んだ絵本、表紙やタイトルが目にとまるような絵本を並べておき、友達と同じ絵本を見たい子ども同士が関わられるようにする
- ・今の季節や時期に子どもの生活の中で出会うような題材のものを手に取りやすく並べておく
- ・絵本コーナーの近くに、紙や色鉛筆、鉛筆、ペンなどを用意して自由に取り出せるようにしておくことで、絵本作りに興味をもてるようにする
- ・保育者は、工夫やこだわり、思い入れ、発想の豊かさ、根気よく頑張ったことなどを認めていき、読み手の感想も伝えていく
- ・使ったものが元に戻しやすいように分類や表示をして

おく。もったいないものや見えそうなものは再利用するよう心掛ける

- ・子どもの身近な自然や生活の中で出会うような題材の本を本棚に表紙が見えるようにして並べておく。様子を見ながら必要に応じて一緒に読んだり調べたりする

### Ⅲ. ま と め

子どもが保育の場でどんな乳幼児期を過ごすか、どんな絵本に出会うか、それは保育者にかかっているといっても過言ではない。絵本が生活にある保育とは、子どもたちの創造性や感性だけでなく、その後の人生をも豊かにしていく。保育者は、その場その場で絵本を選択して読むこともあるが、見通しをもって意識的に絵本のある保育計画を行うことも大切である。保育環境を設定し、保育者の配慮、援助など、指導の要点を検討することで、日々の保育が充実し、子どもたちにとって価値のあるかけがえのないものとなる。今回の研究の絵本の役割と指導の要点は、ごく一部であったが、今後も絵本から広がる具体的な遊びの実践例などを検討して研究を続けていきたい。

### 参 考 文 献

- 徳永満理 2009 『赤ちゃんにどんな絵本を読もうかなー乳児保育の中の絵本の役割ー』かもがわ出版
- 生田美秋 石井光恵 藤本朝巳 2013 『ベーシック絵本入門』ミネルヴァ書房
- 正置友子 2015 『保育の中の絵本』かもがわ出版
- 福岡貞子 磯沢順子 2009 『保育者と学生・親のための乳児の絵本・保育課題絵本ガイド』ミネルヴァ書房
- 保育計画研究会・編集委員会 2013 『実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方』ひとなる書房
- 森上史郎 柏女霊峰 編 2013 『保育用語辞典第7版』ミネルヴァ書房
- 柴崎正行 戸田雅美 増田まゆみ 編 2010『保育課程・教育課程総論』ミネルヴァ書房
- 鳴門教育大学附属幼稚園 2008 『生活プラン』鳴門教育大学附属幼稚園